

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	基本理念を『「らしい」と気づき！「らしさ」を導き！「らしく」を知る！』と掲げ、職員が共有している。理念は、玄関入り口に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	常に理念を念頭に置き、支援につなげられるよう、月1回開催する会議でも理念の振り返りをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	ご家族へは、面会時等を利用し伝えるようにしている。地域へは運営推進会議で伝えた内容が委員から住民へ伝えていただけるような形となっている。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後は事業所主催の行事を企画し参加を呼びかけ、その行事を毎年恒例にできるようにしていきたいと考えている。
	月1回イベントを企画して、近所の方へ回覧を出している。散歩や畑に出かける際、挨拶や声を交わしている。その際、野菜や花を頂くこともある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	集まりに常に参加し、交流が図れるようにしていきたい。
	月1回の部落定例会に参加している。草刈や災害訓練等にも参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回の定例会の際に介護の相談などがある場合にはケアマネが相談にのるので気軽に立ち寄っていただけるように声をかけている。	○	認知症介護家族交流会に参加予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施。自己評価にあたり、評価前には意義や目的を全職員に伝えた。評価後の改善点については、具体策の検討などを実施することになっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第3金曜日に開催している。委員の方々から、いろいろ意見を頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ほとんど行き来することがない。	○	今後機会を作り、積極的に連携が図れるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用者1名。必要に応じて職員にも説明し、利用者の支援につなげられるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な取り組みは行っていない。しかし、ホームの理念に基づき入居者の方々の尊厳を守る事を意識して支援している。	○	勉強会の開催をし、虐待防止の意識を共有、高めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間をかけ説明し理解を得られるように努めている。看取りについてはそのような状況になった場合改めてご家族との話し合いの場を持ち、十分な協議の上入居が継続できるように支援していくようにする。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を尊重できるよう日々意思の確認を徹底している。また、その都度の言葉や態度から不満や意見を察知できるよう普段と様子が違うときは申し送りなどを利用し情報の共有を行い、対応策を検討している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回連絡表を郵送している。その際、1ヶ月内に何を購入したか、残金いくらあるか報告している。2ヶ月に1回お便りを郵送している。金銭管理は、面会時に確認して頂いている。面会時には日ごろの様子を伝えるようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何かありましたらいつでもお話しくださいと伝えている。家族などからの意見があった場合には早急に対応策を検討していく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、並びに勉強会を月1回開催し、意見を聞けるように問いかけている。人事考課制度があり、個別の面談をする機会がつけられた。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急変時等、柔軟に対応できるようその時の状況に合わせ勤務を組んでいる。行事などの際は特に配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が支援することが重要であると考えている。やむを得ず異動がある場合には、引継ぎはもちろん、入居者への影響がないように、普段よりも増して、精神状態の変化を汲み取れるように観察している。また状態の共有に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のGHとの交換研修を実施している。研修への参加については、職員の意欲、経験年数、勤務態度に応じてできる限り参加できるようにしている。また研修参加後には報告会を開催し内容の共有に努めるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、および全国のGH協会に入会し研修会、定例会に参加し、質の向上につなげられるようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保。管理者との面談で不安や悩みを聞けるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に向上心をもって働けるように、人事考課制度のもと、個々の目標を掲げ、それらを達成できるように日々業務に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の実態調査の実施し、これまでの生活暦をできる限り把握できるように努めている。その際にご本人が今何を思い、支えにして生活しているかなども把握できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の実態調査の実施のほか、本人がいて話せないような雰囲気の場合には改めて、ホームへ来て頂いたり、連絡を取らせて頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明した上で、ご本人の状況などから必要と思われるサービスについてはお話をさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂いている。必要であれば入居前に職員がご本人宅へ伺い職員となじみの関係を築きながら入居に結びつけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どんなに小さなことでも共に喜びや悲しみを分かち合い共有することの大切さを意識するようにしている。一緒に何でも行えるように工夫したり場面作り、声のかけ方に配慮している。四季の行事や慣わし事は入居者の方々から教えて頂きながら生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にここでの様子を伝えるだけでなく、生活暦等を改めて聞き入居者の方への思いを共有できるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に近況報告をしている。なかなかご面会に来れないご家族へは電話をしたり、ご本人とも話ができるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの働きかけが少ない。	○	今後は、できる限り関係が途切れないようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者同士で過ごして頂いたり、時には皆で歌を歌ったりにぎやかに過ごしたり、そのときの状況に合わせた場面作りに努めている。不満等があった場合には個別に話を聞くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院した際には、面会に行ったりしている。	○	他施設に移られても面会に行くようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や現状を踏まえた上で検討している。また、本人や家族とのコミュニケーションの中から本当の希望や意向などを探るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の情報収集は行っているが、入居後新たには行っていないため、もう少し生活歴を知る工夫をしていきたい。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できることを決め付けずまずは試してみるように声をかけたりしている。その情報を申し送りなどで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今できることを少しでも継続してできるようにプランへ入れている。またご家族の希望も反映できるようにその都度希望の確認を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化があった場合には、ご家族に状況の説明をした上で、速やかにプラン変更をしご家族より同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に情報の共有ができるよう職員同士声を掛け合っている。また申し送り、記録への記載をし、新たな支援へつなげられるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診以外で急な受診の場合にはご家族の都合にも合わせ、職員だけで対応したりしている。毎日の買い物や天気の日にはドライブ、散歩に出かけている。また、状況に応じて、重度化した場合や終末期でも住み慣れたGHでの生活を継続できるように指針を掲げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回移動図書館の利用。毎週火・水に1名ボランティアが来居している。	○	警察や消防などとの意見交換の場を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回移動図書館の利用。	○	利用できる他のサービスを検索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括との意見交換の場がない。	○	今後のためにも意見交換できる関係づくりをしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院への受診を継続している。ご家族が付き添いで受診する場合には、ホームでの様子を文書にし主治医に渡して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人理事長より助言を頂いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回の健康指導を兼務看護師が行っている。状態変化時は急であればすぐ看護師へ訪問依頼し、急でなければ申し送りノートを活用し情報の共有をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはホームでの生活状況を同意の元情報提供している。またできる限り面会に出向き本人の状況の把握に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には看取りについての指針の説明を行っている。状態の変化時にはできるだけ納得のいくように話し合いの場を多く持ち方針の下に対応していきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	指針はあるものの、実際にまだそのような状況になっていないため、今後の事を考え、検討会の実施が必要と思われる。	○	検討会を実施し、できる限り住み慣れた環境で継続して支援が受けられる環境を整え、主治医や看護師と連携をとっていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居申し込みの時点で説明はしている。入居をお受けする際には職員でどのような状況が想定されるか話し合い、対応を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努めている。把握だけでなくそこから更に自立に向けた取り組みを行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間は決めていない。希望の方は毎日入浴している。特に希望がない場合には一日おきに声をかけている。汚染時などはその都度入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出後や入浴後など必要時には休息できるように声をかけている。夜間不眠傾向の方へは夜間浴の実施も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	学習療法を行っている方が4名。生活歴を入居前に情報収集しているが足りていない。できることはしていただけるように環境を整え、行った後には感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	一人一人と向き合い日中何もせずに過ごしている方への支援を検討していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいないが、買い物時お財布を渡し、支払いをしていただけるようにはしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り行っている。歩行困難な方でも、車椅子を使用して、散歩やドライブに出かけられるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけドライブには出かけるようにしている。希望があれば、自宅へ行かれる方もいる。	○	一人一人どこに行ってみたいか情報収集し、出来る限り希望に添えるようにしたい。今後は温泉やお墓参りなどへも行けるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。年賀状を職員と一緒に作り家族へ送った。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めておらず、いつでも来て頂けるようにしている。また、面会時にはご本人の部屋でゆっくり過ごして頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。日々拘束は絶対に行かないと意識して支援につなげている。	○	勉強会を開催し、意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中かけていないが、夜間は戸締りのためかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にどこに誰がいるのか把握できるように気を配るようにしている。夜間は転倒しやすい方の部屋の側で待機したり、常に見渡せるように待機場所の工夫をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、入居者の状況に合わせ管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回の会議の他状況に応じて会議の開催をしその都度確認しあい取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	何かあった場合は看護師へ連絡し指示を仰いでいる。	○	勉強会の開催。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の災害訓練に参加している。運営推進会議で働きかけている。マニュアルを作成しており、年2回の訓練の実施。	○	今後訓練実施時、近隣へ声をかけ見学、参加して頂く予定。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、面会時に近況報告や、状態報告をして起こりえるリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活記録や申し送り表にて共有している。日々の状態に変化がないか観察することを徹底している。変化があった場合には、状況に応じ看護師への連絡もしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表にはまとめているが、目的、副作用の理解に欠けている。服薬については、マニュアルがあり、こちらで準備し服用の確認、チェックを行っている。	○	勉強会の開催。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師による健康指導を受けながら、水分調整や、腹部マッサージを行っている。下剤を服用している方へはできるだけトイレでの排泄ができるよう、服用後の本人の様子を確認し排便のサインがないか観察、誘導を行っている。	○	勉強会を開催。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声をかけ行っている。夜間は毎日義歯洗浄をしている。その際、口腔内の異常がないか確認も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士による栄養指導をもらっている。嗜好を取り入れるようにはしているが、足りていない。	○	家族より、嗜好の情報収集をしていきたい。アンケートなどを実施していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの通り行っている。感染症が出た場合にはその日のうちに会議を開催し、対応の周知徹底を図るようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は前日に購入し、刺身については当日購入している。調理器具は毎食後消毒し、入居者、職員共に食前後、外出後の手洗い、うがいを徹底している。手拭は一人一人交換し消毒後洗濯している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には出入り口が認識しやすいように目印をしている。	○	ホームの場所を近隣に尋ねる方が多く標識の設置を検討中。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた植物、装飾を行っている。大きな音へは敏感に反応される方がいる為、極力不快な音を出さないように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士と一緒に過ごせる様に、場所への誘導を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時になじみの物を運んで頂けるよう、その理由を説明し たものの、新しく準備した方もいる。カーテンについては好き な色を選んでいただきこちらで準備した。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	室温湿度計をこまめにチェックし、湿度は40%をきらないよう にしている。きった場合には加湿を行なっている。天気に応 じ換気はその都度行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	フローリングの部屋の方で転倒しやすい方へはじゅうたんを 敷いたり、危険箇所がないか常に気を配っている。状況に合 わせて手すりを増やしたりしていく。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	混乱の原因を探り、その原因に合わせた対応方法を検討し 環境を整えるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関先に季節の花々を植えている。外にはベンチを置く予 定。入居者の方の状況に合わせて、スペースを工夫していき たい。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム「竹の里」では、日々の支援の中で常に心がけていることは、職員が笑顔を絶やさないことです。日々勉強の気持ちで入居者の方に教えて頂きながら、笑いのある生活を送っています。

毎日の買い物はもちろん、できる限り外に出かけるように市内のドライブやホーム周辺の散歩を欠かしません。また、入浴もできる限り入れるように夜間も含め曜日等は決めておりません。

家族や地域の方々と交流を図ると共に、GHのことを知って頂きたいと考え、月1回イベントを企画・実施して、今年度は毎月新聞に活動内容を掲載できました。今後とも、交流を図りながら、GHの情報を発信していきたいです。